

第15章 駒林遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

駒林遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地し、標高12～15m前後の平坦地を形成する。もともと遺跡の範囲は南北300m、東西800mの範囲であったが、2002年～2004年に行った駒林土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果、大溝を検出した南北160m、東西80mの範囲に遺跡を縮小し、さらに地下式坑を検出した周辺を駒林新田前遺跡として独立させ、新たな包蔵地として2004年3月に追加した。しかし、第3地点で検出した溝と過去の試掘調査で検出した溝の配置を再検討した結果、一辺140～160mの台形区画に溝が巡る事が明らかとなり、2008年2月に再び遺跡範囲の変更増補を行い、北側の葺石と板碑を検出した駒林中世墳墓と東側の地下式坑を検出し

た駒林新田前遺跡を統合した。区画整理後は開発が進み、宅地と商業地に変貌を遂げ部分的に畑が残っている。

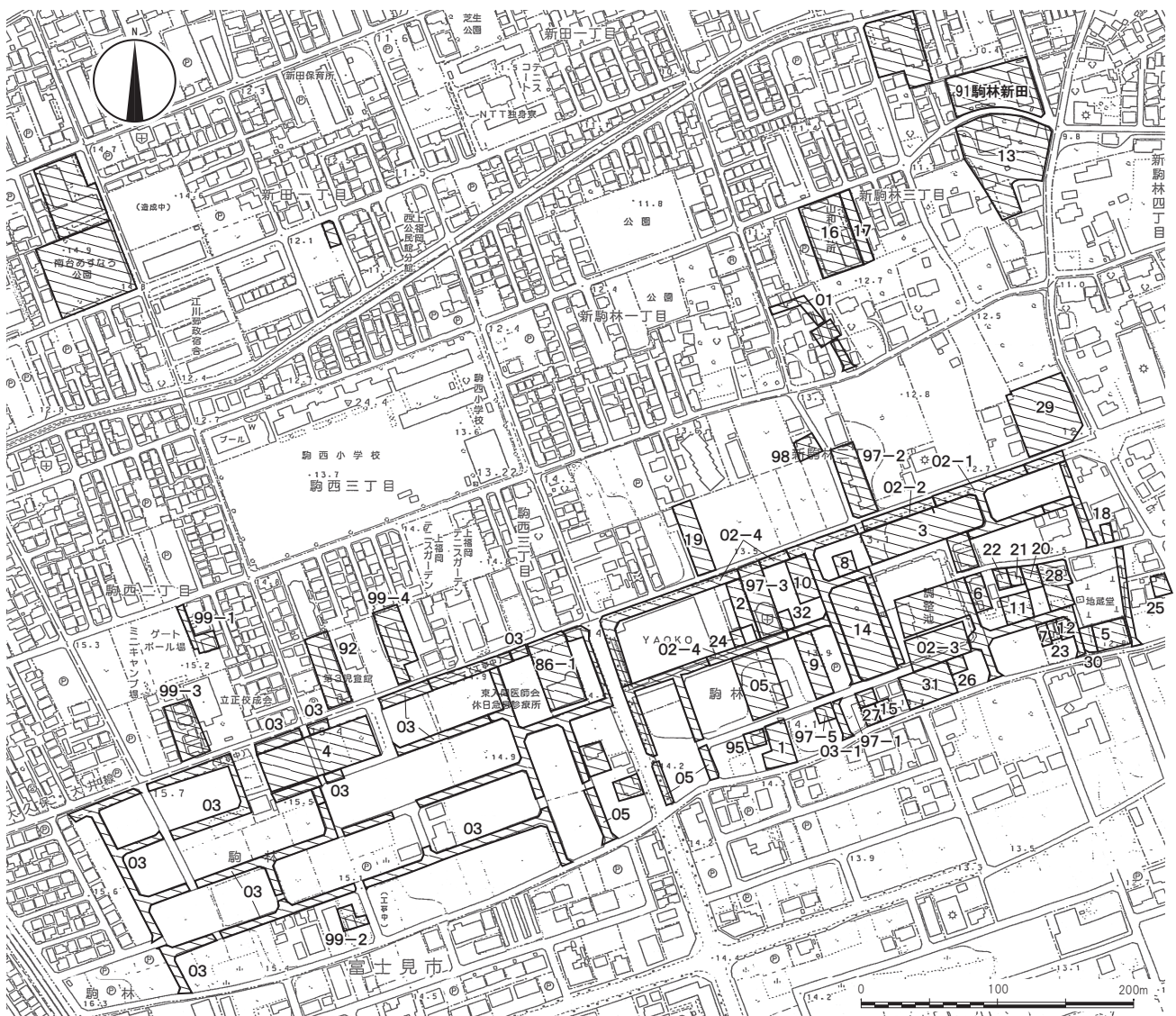
周辺の遺跡は500m下流に福岡新田遺跡、南側にも地下式坑を検出した富士見市の稲荷久保北遺跡がある。2002年以降の試掘調査の結果、幅5m、深さ2mの大溝や茶毘跡、縄文時代の集石土坑等を検出する。

II 駒林遺跡第29地点

(1) 調査の概要

調査は店舗建設に伴うもので、原因者より2013年5月1日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部東端に位置する。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、



第48図 駒林遺跡の地形と調査区 (1/5,000)

2013 年 6 月 3 日～ 17 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約 1.5 m のトレンチ 11 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは 40 ～ 100 cm である。調査区全体に攪乱がみられる。

試掘調査の結果、中近世以降の溝 5 本、土坑 2 基を確認し、一部を検出した。遺構確認面までの深さと、開発の建物の配置等から遺跡への影響がないため、本調査は行っていない。また、旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① 土坑

土坑 1・2 は調査区の北西部、トレンチ 1 で確認された。当初は一つの遺構と考えていたため、出土遺物も土坑として取り上げた。検出後に別の遺構としたが、全体を検出した訳ではないので全容は不明である。土層の観察から、北側を土坑 1、南側を土坑 2 とした。土坑 1・2 共に平面形態は不明である。

土坑 1・2 の時期は出土遺物に型紙摺絵技法の磁器がみられない点から、19 世紀末以前と考えられる。

【土坑 1】 規模は、確認面径 345 × (103) cm、底径 275 × (38) cm、深さ 30 cm である。

第 27 表 駒林遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	駒林土地区画整理事業地内 20 街区 4・8・9	2006.7.13～28	646	共同住宅	堀跡、茶毘跡検出	市内 3
2	駒林土地区画整理事業地内 17 街区 7・8 の一部	2006.11.21～29	421	専用住宅	堀跡検出	市内 3
3	駒林土地区画整理事業地内 21 街区 3・4 の一部	2006.11.30～12.18	1,916	店舗	近世遺構建設	市内 3
4	駒林 B 地区 7 街区 3・4	2007.6.11～13	1,866	共同住宅	縄文：土坑 1	市内 4
5	大字駒林字新田前 256(仮換地指定 30 街区 2)	(2008.4.9～16)2008.5.30～6.28	509	分譲住宅	縄文：集石 3、中近世：地下式坑 1、竪穴状遺構 25、溝 4、柵列、ビット	市内 5・6
6	大字駒林字新田前 248-2(仮換地 1 街区 27 符号 1)	(2008.8.27)	257	個人住宅	遺構・遺物無し	市内 6
7	駒林土地区画整理事業地内 28 街区 5 画地	(2009.2.3)2009.2.4・5	152	個人住宅	時期不詳の堀・溝跡 2	市内 6
8	大字駒林字新田前 245-5	(2009.6.8)	132	個人住宅	遺構遺物無し	市内 8
9	大字駒林字新田前 284	(2009.7.22～30)2009.7.30～8.5	892	共同住宅	縄文：集石土坑 1、土坑 2、ビット 9、溝 1	市内 8
10	大字駒林字新田前 288-1 の一部	(2010.2.17・18)	400	個人住宅	遺構遺物無し	市内 8
11	駒林区画整理事業 27 街区 2、10 画地、11 画地の一部	(2010.4.12～21)	689	個人住宅	遺構遺物無し	市内 10
12	駒林字新田前 258-2(28 街区 12 画地)	(2010.7.14)	115	個人住宅	中世～近世：溝確認	市内 10
13	新駒林 3-722-1・3・4	(2010.7.27～29)	927	共同住宅	近世の土坑 2、ビット 11	市内 10
14	駒林字新田前 285～287、288-2・3(22 街区内)	(2010.9.1～8)	2,000	公園工事	遺構遺物無し	市内 10
15	大字駒林字新田前 266-3(24 街区 12 符号)	(2011.2.16・17)2011.2.17	115	個人住宅	時期不詳の土坑 1	市内 10
16	新駒林 3-706	(2011.5.2～25)2011.5.25～6.1	1,454	分譲住宅	堀、溝 1、井戸 2、土坑 2、ビット 4、縄文土器片、近世陶磁器	市内 14
17	新駒林 3-707	(2011.5.16～19)	495	分譲住宅		
18	駒林 234-2、238-2(仮換地)、31-4・5	(2011.4.28～5.2)2011.8.25～31	238	個人住宅	土坑 2、近世陶磁器類破片	市内 14
19	新駒林 2-305-1	(2011.11.28～12.5)2011.12.12	671	分譲住宅	中・近世の溝 1、縄文土器	市内 14
20	駒林元町 1-3-13	(2012.3.5～8)	179	共同住宅	土坑 1	市内 14
21	駒林元町 1-3-13 の一部	(2012.3.5～8)	110	個人住宅	ビット 6、倒木痕 1	市内 14
22	駒林元町 1-3-20	(2012.3.5～8)	118	個人住宅	遺構遺物なし	市内 14
23	駒林元町一丁目 4 番 12	(2012.4.10～16)	127	専用住宅	ビット 2、溝 3(うち 1 は掘状)、遺物なし	市内 15
24	駒林元町二丁目 1-7	(2012.5.16)	127	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
25	駒林元町一丁目 2 番 7	(2012.6.4)	212	個人住宅	遺構なし、土器	市内 15
26	駒林元町一丁目 5 番 16	(2012.8.29・30)	136	個人住宅	ビット 6、溝 1、遺物なし	市内 15
27	駒林元町 1-5-9・10	(2012.12.21)	133	個人住宅	時期不明土坑 1、遺物なし	市内 15
28	駒林元町 1-3-8・14～16	(2013.2.21～25)2013.5.21～27	1,208	宅地造成	中近世以降堀跡、溝 1、磁器片、須恵器、陶器	市内 14
29	新駒林 2-231-1	(2013.6.3～17)	2,200	店舗	溝 6、土坑 2、石器、近世陶磁器	市 18
30	駒林元町 1-3-7	(2013.6.19・20)	68	個人住宅	近世以降ビット 3、陶磁器	市 18
31	駒林元町 1-5-5・6	(2013.9.17～27)	925	宅地造成	溝 4	市 18
32	駒林元町 2-1-16	(2014.2.10)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市 18



第 49 図 駒林遺跡遺構分布図 (1/2,000)

(2) 遺構と遺物

①ピット

ピットは3基検出したが、遺物も無く時期も不明であり、今回は遺構としては取り扱わない。

ピット1～3はほぼ円形を呈する。ピット1の規模は、確認面径 27×25 cm、底径 9×6 cm、深さ 36.9 cm である。ピット2の規模は、確認面径 $37 \times (17)$ cm、底径 $18 \times (7)$ cm、深さ 82.3 cm である。ピット3の規模は、確認面径 43×40 cm、底径 17×13 cm、深さ 69.2 cm である。

IV 駒林遺跡第31地点

(1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より 2013 年 7 月 5 日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南端に位置する。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013 年 9 月 17 日～27 日に試掘調査を実施した。試掘調査は、幅約 1.5 m のトレンチ 8 本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは約 60～80 cm である。試掘調査の結果、駒林遺跡を囲む堀跡の続きと新たに溝 3 本を確認し、一部を検出した。旧石器時代の確認調査は行っていない。造成工事による遺跡への影響が無いため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①溝

溝 1 は前述のとおり堀状を呈し、その他に新たに溝 3 本を検出した。

【溝 1】 溝 1 は、1997・2002・2006 年度の試掘調査等で、駒林遺跡を囲むように検出されている、堀状遺構の続きである。今回溝 1 はプランの確認のみで検出していないが、上幅は約 2.2 m である。

【溝 2】 溝 2 は調査区の南西部に位置しやや蛇行しながら調査区外に延びる。断面形態は逆台形を呈する。

規模は上幅 75～115 cm、下幅 20～53 cm、深さ 52 cm である。出土遺物なし。

【溝 3・4】 溝 3・4 は調査区の西部に位置し、南北に平行して延びる。溝 3 の東側に区画整理事業以前の道路跡が、本遺構に関係する可能性も考えられる

溝 3・4 は溝 1 と重複するとみられるが、新旧関係は不明である。ただし、溝 3・4 の覆土層の観察から溝 1 が古いと考えられる。

両溝の断面形態は、共に浅い「U」字状を呈する。溝 3 の規模は上幅 63～70 cm、下幅 13～20 cm、深さ 18.9 cm である。溝 4 の規模は上幅 57～62 cm、下幅 29～31 cm、深さ 11.5 cm である。両溝ともに出土遺物なし。

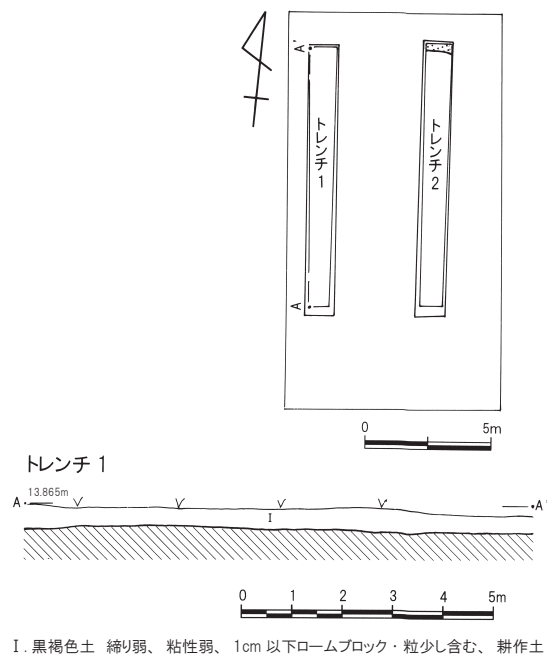
V 駒林遺跡第32地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2014 年 1 月 16 日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2014 年 2 月 10 日に試掘調査を実施した。試掘調査は、幅約 1 m のトレンチ 2 本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは約 40 cm である。試掘調査の結果、遺構と遺物は確認されなかった。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



第 54 図 駒林遺跡第 32 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)



駒林遺跡第 31 地点トレンチ 1



駒林遺跡第 31 地点トレンチ 4



駒林遺跡第 31 地点トレンチ 5



駒林遺跡第 31 地点トレンチ 8



駒林遺跡第 31 地点調査風景



駒林遺跡第 32 地点調査風景



駒林遺跡第 32 地点調査風景



駒林遺跡第 32 地点トレンチ 1